

京都文教大学教員による宇治商工会議所会員企業紹介

組織づくりを研究する多湖が見た企業の魅力

《第2回》 協栄エコソリューション株式会社

2024年

1

昨今、「人的資本経営」と呼ばれる、企業で働く社員を会社の「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値の向上につながる経営方法が注目されています。人的資本経営の考え方によると、社員の個性を活かし、活用することが、最終的に企業の利益につながると言われています。つまり、社員を大切にすることが企業の将来につながるという考え方で、企業にとっても、社員にとっても、非常に重要なものです。

今回は「人的資本経営」を実践している協栄エコソリューション株式会社様(以下、協栄エコソリューション)取材しました。

協栄エコソリューションの経営理念のひとつには、「私たちは、今あることに感謝し、個性と自主性を伸ばし、互いに助け合える企業風土を創ります」というものがあります。まさに人的資本経営を体現されている企業です。具体的な取り組みは紙面の都合上、一部のみとなりますが、ご紹介いたします。



代表取締役の寺重 裕弘氏と

【特徴的な3つの取り組み】

協栄エコソリューションでは、特徴的な3つの取り組みがなされていました。以下の3つの取り組みを中心に、さまざまな取り組みを行った結果、現在進行形で多くの成果を成し遂げています。

1つ目は、従来は経営層しか知り得なかった社内のデータ(数字)を社員の方々に対してオープンにしたことです。このことにより、社員の方々が会社の経営を意識した仕事を行うようになりました。つまり、社員の方々に経営者マインドを持ってもらうことで、意識と行動の変化を促したのです。

2つ目は、従業員の健康に配慮した取り組みに力を入れ出したことです。年に2回の健康診断に加えて、がん検診も実施し、また、社員全員のがん保険への加入も会社負担で行っています。社員の健康に配慮することは、社員のパフォーマンスを最大限に引き出すことにつながり、最終的に会社のためになるという「健康経営」という考え方があります。まさに意図せず健康経営を実践されていたのです。

3つ目は、社長と従業員の方々との距離を近づける工夫がなされたことです。社長はここから「聴く」ことを意識するようになりました。聴くことの最たるものとして、経営理念を社員の方々と再考することがありました。結果、社内のコミュニケーションの活性化につながりました。



会社内の様子

【社員を大切に】

ここまで、協栄エコソリューションの取り組みを紹介してきましたが、社員が働きやすい環境をつくることは『企業の将来』につながります。「社員を大切に」と謳っている企業は世の中に星の数ほどありますが、同社の具体的な取り組みを実際に目の当たりにすることで、その素晴らしさを実感できました。

【今回の取材先】



Kyoei Eco Solution
協栄エコソリューション株式会社

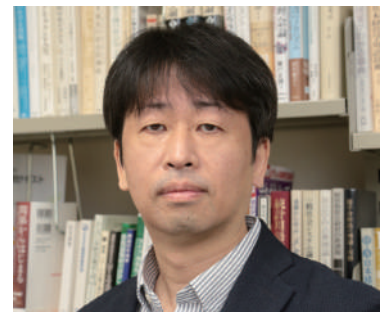
1975年に川崎重工業(株)代理店として、京都府宇治市伊勢田町遊田に創業。廃棄物処理、再資源化プラント設計、施工、販売、骨材製造プラントの設計、施工、販売、各種破碎機・粉砕機・選別機・分級機の販売、移動式破碎選別装置の販売、高性能破碎刃、耐磨耗鋼品の販売、これらに関わるメンテナンス全般を事業とし、環境への取り組みを実践している企業です。



ホームページ

【筆者プロフィール】

多湖 雅博(たごお まさひろ)
京都文教大学総合社会学部 講師



組織開発を中心に、健康経営、組織行動、組織マネジメントなどを研究しており、従業員と企業がWin-Winの関係を築ける組織を経営学の視点から考察している。

著書に『経営理念・経営ビジョン/経営戦略』(日本医療企画)、『職場の経営学:ミドル・マネジメントのための実践的ヒント』(中央経済社)などがある。

京都文教大学 総合社会学部で、組織の経営やマネジメントに関する調査・研究を行う多湖先生。令和5年度から年に2回程度、宇治商工会議所会員企業で組織の内面を磨き発展している会社を取材し、記事として掲載しています。